

間質性肺炎マーカーにおける乖離症例の比較検討

◎加藤 洋平¹⁾、中村 里奈¹⁾、長嶋 健二¹⁾、帖佐 光洋¹⁾、野久 謙¹⁾
国立大学法人 岐阜大学 医学部附属病院¹⁾

【目的】間質性肺炎の血中バイオマーカーである Krebs von den lungen-6 (KL-6)および Surfactant protein A(SP-A) は間質性肺炎患者の血中で高値となるバイオマーカーとして広く認知されている。両項目は必ずしも相関性があるわけではなく、乖離症例が多数報告されている。今回我々は、SP-A、KL-6 の乖離した症例においてどのような病態で乖離が発生するのかを比較検討した。

【方法と対象】対象は、全自動免疫測定装置 HISCL-5000 (シスメックス株式会社)を用いて KL-6 値と SP-A 値が同時測定されている 48 例。それらを KL-6 基準値内/SP-A 高値の群と KL-6 高値/SP-A 基準値内の群に分け、各乖離症例での病態を確認した。

【結果】48 例中、KL-6 基準値内/SP-A 高値の群が 12 例 (25%)、KL-6 高値/SP-A 基準値内の群が 6 例 (12.5%)抽出された。各乖離症例の内訳は、KL-6 基準値内/SP-A 高値の群で、間質性肺炎が 3 例、多発性血管性肉下種が 1 例、担癌症例が 5 例、SARS-CoV2 陽性が 3 例認められた。一方、KL-6 高値/SP-A 基準値内の群では、間質性肺炎が 2 例、肺

サルコイドーシスが 1 例、担癌症例が 2 例、SARS-CoV2 陽性 (治癒後) が 1 例認められた。

【結論】今回の検討により腫瘍、肉芽腫生疾患、SARS-CoV2 肺炎において KL-6 と SP-A の測定値が乖離することが認められた。KL-6 と SP-A はⅡ型肺胞上皮細胞に由来するタンパク質であり、両項目は肺胞損傷・線維化等により血中濃度が増加すると考えられる。KL-6 は乳癌、膵癌などの腫瘍性疾患で高値となることが報告されているが、今回の検討では SP-A においても肺関連疾患以外の病態で高値となる可能性が示唆された。また、COVID-19 肺炎症例においては KL-6 基準値内/SP-A 高値と乖離する例が認められ、診断における有用性が示唆された。

以上のことから KL-6 および SP-A は間質性肺炎以外の様々な疾患で測定値の変動が認められ、2 項目を同時測定することにより、測定値乖離の原因検索や診断に有用であることが考えられる。

国立大学法人岐阜大学医学部附属病院 058-230-7251